

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	久喜市立のぞみ園			
○保護者評価実施期間	令和7年3月11日		～	令和7年3月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数)	8名
○従業者評価実施期間	令和7年3月11日		～	令和7年3月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月29日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・保護者の方の事業所への満足度が高いこと。子どもも、通園を楽しみにしている。	・子ども達が楽しいと思える活動や遊びを行なえるように、子どもが興味を持っていること、好きなことを日々探っている。 ・相談に応じたり子どもの様子を伝えるため、保護者の方との会話を大事にしている。	・満足度を継続していけるよう、子どもの気持ちに寄り添いながら、楽しさの共有をしていく。また、様々な活動や遊びを取り入れていきたい。 ・保護者の方へアンケートを取る等、意見や要望を伺う機会を増やしていきたい。
2	・個別支援計画に沿った支援を行なっている。	・子どもにどう成長してほしいか、そのためにはどのような方法が必要か、というところを職員間で充分協議しながら計画を立て、支援を行なった。	・職員間で情報共有をしたり、話し合いながら適切な支援計画を立て、より良い支援ができるように務めていく。
3	・同じ敷地内に保育園がある。交流を持ちやすい。保育園園児をお手本にして模倣、行動ができる。	・園庭で遊ぶ時など、普段から関わりを持つことが多い。保育園園児の側で遊んだり、保育園園児とのやりとりの仲介を行なった。	・保育園と、交流する機会を増やしていくこと。保育士同士の情報交換にも繋げていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者支援（ペアレントトレーニング）ができていない。	・ペアレントトレーニングについて、知識が乏しい。保護者へ発信、伝えることができない。	・ペアレントトレーニングの研修への参加。知識の習得や、保護者へ伝える技術を獲得していく。
2	・幼稚園や保育園とは連携を図れているが、地域の児童発達支援事業所、児童発達支援センターとの関わりが弱い。	・地域の児童発達支援事業所やセンターと連絡を取り合ったり、関わる機会がない。	・自立支援協議会のこども部会へ積極的に参加していき、連携を図っていく。
3	・室内の手狭さ。少人数では感じないが、人数が多くなると狭さを感じる。動きのある活動を行ないにくい。	(工夫して行なったこと) ・物品や遊具を片づけたり、人数を調整しながら動きやすいようにして活動を行なった。	・物品を片づけるだけでは限界もあるため、法人で所有している広い施設や地域の施設を利用するなど工夫していく。